

入院中の内閣記者会代表との懇談

(昭和五十五年六月八日)

東京・虎の門病院に入院中の大平首相は八日朝、入院以来初めて内閣記者会の代表三人を病室に招いて、短時間懇談した。

午前九時二十四分、記者団が病室に入る。

内閣記者会を代表してきました。

首相 ああ、ご苦労さん。

気分は。

首相 そう快だ。

入院中、何を考えておられたか。

首相 選挙のことばかり……。

いま一番心配していることは。

首相 早く床払いしたい、それだけだ。

いか。

退院して元気になられたら、まず何をしたいか。

首相 まだ、そんなこと考えていない。早くよくなって、仕事を……。

国民にいま一番いいたいことは何か。

首相 一挙に重大な選挙を二つ同時にお願したので、うまくこなしてくれればよいが。十分な用意もなく入ったことです。日本人はそれなりに、うまく、手際よくやってくれるのでは……。

元気になって、できればサミットに行かれるように、との関心が持たれています。

首相 ええ。ありがとうございます。